

平成 24 年 3 月 13 日

各 位

会 社 名 シーシーエス株式会社
 代表者名 代表執行役社長 各務 嘉郎
 (JASDAQ・コード6669)
 問合せ先
 役 職 経理財務グループマネージャー
 氏 名 梶原 慶枝
 電 話 075-415-8280

平成 24 年 7 月期第 2 四半期連結・個別累計期間の実績値と前年同期実績値との差異および
 連結通期業績予想の修正ならびに特別損失発生の見込みに関するお知らせ

平成 24 年 7 月期第 2 四半期連結および個別累計期間（平成 23 年 8 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日）の
 実績値について、前年同期実績値と比較して、下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向ならびに本日付で公表いたしました「植物育成プラント事業の廃止および子会
 社の解散方針の決定に関するお知らせ」を踏まえ、平成 23 年 12 月に公表した平成 24 年 7 月期通期の業績
 予想について、下記の通り修正し、併せて特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 7 月期第 2 四半期連結累計実績と前年同期実績との差異
 (平成 23 年 8 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前年同期実績 (A) (平成 23 年 7 月期第 2 四半期累計)	百万円 2,608	百万円 117	百万円 101	百万円 49	円 銭 2,391.15
今回業績 (B)	2,500	△51	△78	△104	△4,040.88
増減額 (B - A)	△107	△168	△180	△153	△6,432.03
増 減 率	△4.1%	—	—	—	—

2. 平成 24 年 7 月期第 2 四半期個別累計実績と前年同期実績との差異
 (平成 23 年 8 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前年同期実績 (A) (平成 23 年 7 月期第 2 四半期累計)	百万円 2,237	百万円 238	百万円 233	百万円 201	円 銭 9,754.90
今回業績 (B)	2,244	35	9	△5	△208.92
増減額 (B - A)	7	△202	△223	△206	△9,963.82
増 減 率	0.3%	△85.0%	△95.8%	—	—

3. 平成24年7月期連結通期業績予想の修正

(平成23年8月1日～平成24年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	百万円 6,810	百万円 770	百万円 710	百万円 400	円 銭 15,526.14
今回修正 (B)	5,530	220	170	△610	△23,677.37
増減額 (B－A)	△1,280	△550	△540	△1,010	△39,203.51
増減率	△18.8%	△71.4%	△76.1%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成23年7月期)	5,314	228	179	89	4,312.42

4. 差異及び修正の理由

(1) 第2四半期連結累計実績と前年同期実績との差異の理由

LED照明事業の工業用LED照明分野におきましては、国内は堅調に推移したものの、ヨーロッパ経済の後退や急激な円高の影響を受け、海外売上高が前年同期を下回る結果となりました。また、新規事業分野におきまして、新製品の投入に向けた研究開発と市場開拓を積極的に進めたこと等から、販売管理費が増加し、営業利益を圧迫しました。

植物育成プラント事業におきましては、ミニベジプラントの拡販や当第2四半期より開始した福井工場における受託生産活動が計画通りに進まなかったことから、事業の方向性について検討を重ね、本事業を廃止することといたしました。事業廃止に伴い、当第2四半期連結会計期間におきまして、棚卸資産評価損として3百万円を計上しております。なお、詳細につきましては、本日付で公表した「植物育成プラント事業の廃止および子会社の解散方針の決定に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) 第2四半期個別累計実績と前年同期実績との差異の理由

LED照明事業の工業用LED照明分野におきましては、国内は堅調に推移したものの、ヨーロッパ経済の後退や急激な円高の影響を受け、海外売上高が前年同期を下回る結果となりました。また、新規事業分野におきまして、新製品の投入に向けた研究開発と市場開拓を積極的に進めたこと等から、販売管理費が増加し、営業利益を圧迫しました。

(3) 連結通期業績予想の修正の理由

LED照明事業におきましては、電子・半導体業界の国内設備投資の停滞やヨーロッパ経済の不透明感、円高基調の継続等から、工業用LED照明分野で当初見込んでおりました業績の伸長を期待することができないと判断いたしました。また、新規事業分野におきましては、中長期における投資対効果を再検討した結果、事業推進の速度を落とし、優位性のある分野での製品開発に特化してこれを進めていくことといたしました。下期におきましては、コスト削減を含む事業運営の効率化を進め、営業利益の確保に努めてまいります。

植物育成プラント事業におきましては、本日付の「植物育成プラント事業の廃止および子会社の解散方針の決定に関するお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、本事業を廃止し、本事業に係る子会社を解散する方針を決定いたしました。事業の廃止および清算に係る詳細は未定ですが、その過程で生じる可能性のある固定資産売却損等の最大額を試算し、610百万円の特別損失を当期純利益への影響額として業績予想に織り込んでおります。

なお、子会社の清算につきましては、当会計年度終了の平成24年7月末を目処に進めてまいり所存であり、清算によって生じる業績への影響額を最小限にとどめるとともに、来期以降の業績に影響を与えないよう慎重に検討してまいります。今後の日程や影響額等に関しましては、決定次第、速やかにお知らせしてまいります。

5. 特別損失発生の見込みについて

(1) 個別通期業績における特別損失計上の見込み

本日「植物育成プラント事業の廃止および子会社の解散方針の決定に関するお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーは解散し、清算する方針です。詳細は未定ですが、当該子会社解散に伴いまして、当社から子会社への貸付金 765 百万円（当第 2 四半期末現在）につきましては、子会社の残余財産の有無により回収可能性に懸念があるため、全額貸倒引当金を計上する見込みです。

(2) 連結通期業績における固定資産売却損等計上の見込み

上記 4. (3) に記載の通り、子会社清算の過程で固定資産売却損等が最大で 610 百万円計上される可能性があり、全額を業績予想に織り込んでおりますが、当期の業績における計上額は未定であり、売却条件の内容によって金額が減少する可能性があります。

以 上